えどのさんけいこう

#37 江戸の参詣講－挑灯と講中札にみる霊場信仰－

作者：秦野市（はだのし）
刊行：平成７年（1995）

◇◇◇

記載されている。「解題」によると、この資料に掲載されている 176 の参詣講は、霊場別にみると、大山、江之嶋、富士山、片瀬山瀧口寺、川崎大師などがあり、そのうち最も多いのは大山講で、数にして 89 講とその 51% を占めている。

なお、本書の「資料」は、題簽の跡だけを残し、題簽を欠いた状態で秦野市が古書店から入手し、「江戸諸講中挑灯講中札控帳」（仮題）として、秦野市が公表したものである。この資料に関する経歴については不明であるが、資料の作成時期は、資料年代の記載から文化十年頃と推定されている。

■　作者

本書に掲載されている「資料」は、経歴が不明であり、その作成者もはっきりとはわかっていない。しかし、資料の冒頭に掲載されている挑灯に書かれた「大谷徳治」または、二番目に掲げられている「若松屋喜兵衛」が作成者なのではないかと考えられている。

「解題」の執筆者である松岡俊（まつおかたかし）は、産業能率大学情報マネジメント学部教授。著書に、『絵はがきに見る寒川の近代　寒川町史調査報告書　12』（寒川町 2002）、「相模大山御師の形成と展開」（『伊勢原の歴史』第 7 号 1992）等がある。

📖　参考文献

西海賢二「相州大山講と蓑毛御師」（『立正史学』第 57 号 立正大学史学会 1985）

『秦野市史 別巻 3 民俗編』秦野市 1987［K21.63/4/2-3］

『山岳修験 第 18 号 研究発表論集』日本山岳修験学会 1996［K17.64/45］

『伊勢原市史 別編 民俗』伊勢原市史編集委員会編 伊勢原市 1997［K21.64/7/3-1］